

# 原子力災害 からの地域再生を 目指す

地域住民の  
代弁者

行政政策学類 准教授

## 丹波 史紀

TAMBA Fuminori

【専門分野】 社会福祉論（特にひとり親家庭の社会的自立に関する研究など）

【プロフィール】 日本福祉大学大学院社会福祉研究科博士後期課程中退。震災後は、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの地域復興計画部門のマネージャーとして住民支援にあたる。浪江町・双葉町の復興計画などの委員、大熊町の第2次復興計画検討委員会・委員長なども務める。



私が住民支援に関わるようになったのは、2004年、新潟県中越地震でのボランティア活動がきっかけです。旧山古志村の避難所の一つで、学生とともに、子どもたちの学習支援や避難所の環境改善などに取り組みました。このときの経験や研究を活かし、東日本大震災の際には、福島県と連携し木造仮設住宅の設置、地域住民のコミュニティづくりといった支援を行うことができました。また、2011年9月に実施した双葉郡8町村、全28,000世帯を対象としたアンケート調査では、避難者が抱える不安やニーズが明らかになり、避難者の実態に即した支援策、復興計画へつながったことと思います。

原子力災害は、通常 of 自然災害とは異なり、これまでの制度では対応できない

課題を抱えています。時間の経過とともに、家族やコミュニティの広域的な離散は進み、生活再建の見通しが立たない状態です。私たちはそうした長期避難者の支援体制の整備、国による被災者と被災地の復興に向けて、昨年9月、日本学術会議で「長期避難者の暮らしと住まいの再建に関する提言」を行い、個人の多様な選択に応じた柔軟な保障や帰還住民への具体的な支援などを訴え、「複線型復興」という提案を行いました。

研究者は様々な人々の声を「代弁」する役割を担っています。帰還する人、移住する人、女性や子ども、高齢者などそれぞれの声を代弁し、個々のニーズに応える施策作りに貢献していきたいと考えています。



### 研究概要

元々の専門は社会福祉分野、特に貧困・低所得問題です。生活保護ケースワーカーによる自立支援やひとり親家庭の社会的自立についての調査研究などをしてきました。2009年には福島県内の子どもの貧困調査を行いました。

2004年の新潟県中越地震の際の旧山古志村、東日本大震災における相双地域の自治体の復興計画づくりや住民支援にも取り組んできました。



自らの課題を解決するための側面的な支援やアドバイスをできればと思っています。

こんなことができます!

**貧困や災害など社会課題解決のスキームを構築します**

想定するパートナー

地方自治体・企業・NPO や住民組織

具体的な連携、事業化のイメージ

多様なセクターによる協働

#### これまでの取組事例

ひとり親家庭の社会的自立に関する調査研究。福島県における子どもの貧困調査。新潟県中越地震における全村避難の旧山古志村の支援。東日本大震災における復興支援、例えば浪江町・双葉町・大熊町などの復興ビジョン・復興計画のサポート、被災者の住民実態調査や震災以降の要介護需要の要因分析調査など。

#### 関連情報

平山洋介・斎藤浩編『住まいを再生する』岩波書店(2013年)、  
内橋克人編『大震災のなかで—私たちは何をすべきか』岩波新書(2011年)、  
(いずれも分担執筆) など

### 私たちの研究室自慢!

一昨年、私たちは葛尾村の方々の聞き取り調査を行い、震災記録集を作成しました。また、B-1グランプリに浪江町の人たちと一緒に出場し、なみえ焼きそばをPRしました。ゼミの活動を通して、「町のこし」の役に立ちたいと思っています。



健康福祉



防災都市計画